

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **106** 号

平成30年 7・8・9月



刺繍霊鷲山釈迦如来説法図（英国・大英博物館）
©The Trustees of the British Museum

特別展

修理完成記念特別展

糸のみほとけ

—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—

7月14日(土)～8月26日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催
青銅器館

糸のみほとけ

―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏―

7月14日(土)～8月26日(日)

日本では刺繡^{しじゅう}や織物で表された仏の像が古来数多く作られてきました。とりわけ、古代では大寺院のお堂の本尊クラスともされた花形的存在でした。綴織^{つれおり}當麻曼荼羅^{たいまんだら}（国宝、奈良・當麻寺蔵）や刺繡^{しじゅう}釈迦^{しやくか}如来^{らいごう}法図^{ほうず}（国宝、奈良国立博物館蔵）は、その隆盛のさまを伝える至宝です。また、一針一針心を込めて繡^ぬい進める行為は故人の追善にもつながり、聖徳太子が往生した世界を刺繡で表した天寿国繡帳^{てんじゅこくしゅうちやう}（国宝、奈良・中宮寺蔵）が生み出されました。平安時代に織物や刺繡の仏の造立は下火になりましたが、鎌倉時代以降、刺繡の仏は再び隆盛を迎えます。その背景には綴織當麻曼荼羅を織ったとされる中将姫^{ちゆうしやうひめ}に対する信仰がありました。極楽往生を願う人々は中将姫に自身を重ね、刺繡によって阿弥陀^{あみだ}三尊^{さんそん}来迎図^{らいごうず}や種子阿弥陀^{しゆじあみだ}三尊^{さんそん}図^ずを作成しました。

この展覧会は綴織當麻曼荼羅の修理完成を記念し、織物と刺繡による仏の像を一堂に集める特別展です。本展を通して絵画とも違う「糸」の仏の世界の魅力をご鑑賞いただければ幸いです。



刺繡阿弥陀三尊来迎図 和歌山・正智院
(展示期間：8月7日～26日)



重文 刺繡大日如来像 京都・細見美術館



重文 幡足裂
東京国立博物館（法隆寺献納宝物）
(展示期間：7月14日～8月5日)



国宝 綴織當麻曼荼羅(部分) 奈良・當麻寺



重文 刺繡阿弥陀三尊像 石川・西念寺



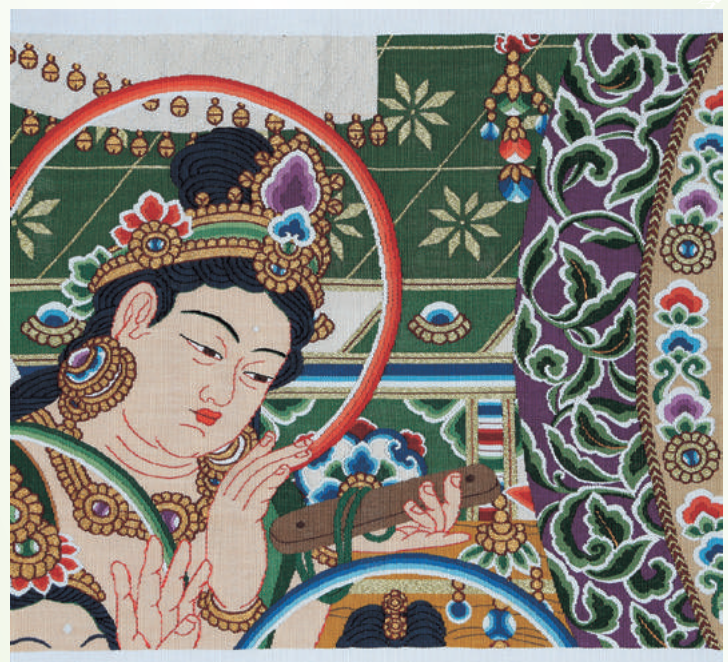
刺繡當麻曼荼羅 京都・真正極樂寺



刺繡釈迦誕生図 長崎・最教寺



重文 刺繡騎獅文殊菩薩像 奈良・大和文華館



綴織當麻曼荼羅 部分復元模造 京都・川島織物セルコン

博物館の古写真

—ガラス乾板が伝える職員たちの奮闘—

当館学芸部資料室長 宮崎 幹子

奈良国立博物館の写真室には、一万七千枚にのぼるガラス乾板^{かんぱん}が保管されている。ガラス乾板とは、銀とゼラチンでできた乳剤をガラスの板に塗布^{とふ}した撮影感光材料で、フィルムが登場する以前、明治十年代後半から昭和三・四十年代にかけて広くもちいられた。近代に始まった文化財調査では、ガラス乾板が普及する前にもたらされた湿板写真^{しつぱんしゃしん}（感光剤が濡^ぬれた状態で使用するためこう呼ばれる）が使われ、このとき初めて仏像や工芸品、正倉院宝物、社寺建築などが写真として記録に残されたが、その後はより取り扱いが簡便で感度の高いガラス乾板に引き継がれ、数多くの文化財が撮影された。いまに残るガラス乾板には、明治二十一年（一八八八）に九鬼隆一^{くきりゅういち}らを中心に発足した臨時全国宝物取調局に係る資料（東京国立博物館蔵）や、焼損前の法隆寺金堂壁画を写したもの（昭和十年（一九三五）撮影。法隆寺・便利堂蔵）などもあり、これらは歴史的価値が高いことから重要文化財に指定されている。

当館所蔵のガラス乾板は、明治二十八年（一八九五）の開館から昭和四十年代までに展示や館外での調査に際して撮影されたもので、まさに帝国奈良博物館として誕生して以降の百二十年あまりに亘^{わた}るあゆみが刻まれている。これらの保存と活用を目指して現在、整理とデジタル化を進めているが、その過程でさまざまな歴史を垣間みることができた。

昭和十二年（一九三七）に完成した収蔵庫（現在の青銅器館）に写場^{しゃじょう}ができる前のことだろうか。展示室にあるはずの多聞天^{たもんてん}（円成寺四天王立像のうち）が本館（現在のなら仏像館）のエントランスにおかれている。ガラス乾板は旧来の感光材料よりも感度が高くなったとはいえ、室内で十分な光量を得ることが難しい場合には屋外の光のもとで撮影に臨むことも少なくなかった。陰影が強くなりすぎないように、早朝や薄曇りの日を選んだかもしれない。別の写真には背後の白布を自らの腕で支える人の姿も写っている。袖先^{そでさき}をドラマチックに翻^{ひる}らせる仏像の姿を克明にとらえようと腐心^{ふしん}する写真技師の苦勞が偲^{しの}ばれる。



四天王立像のうち多聞天 奈良 円成寺蔵

特別展を契機に撮られたガラス乾板も数多く残されている。昭和二十九年（一九五四）に開催された「平安初期展」では三百枚以上の写真が撮影された。京都府神護寺の五大虚空蔵菩薩坐像や大阪府獅子窟寺の薬師如来坐像など、通常では拝観の機会が限られる秘仏をふくむ数々の名品が写っている。なかでも私の心を強く捕らえたのは、岩手県黒石寺の薬師如来坐像の写真。厳しく強烈につり上がった目尻に太い鼻柱、突き出た唇は、荒々しくも見る者に畏敬の念を抱かせる。はるか遠くのみちのくに伝わる平安初期彫刻をはるばる運んできて出陳するのは。終戦から十年に満たないこの頃は交通事情もままならなかったに違いない。ところが展覧会図録には写真はおろか一行の解説もない。不思議に感じて調べてみると、この像が重要文化財に指定されたのは昭和三十二年（一九五七）のことで、当時は必ずしも名品との評価が一般的ではなかったようだ。貞観四年（八六二）の銘文が像内から見いだされていたものの、東北地方にそれほどの古仏が伝わったことを信じる研究者は少なく、実見の機会も限られていた。それが当館での展示をきっかけに多くの人びとがその怪異な容貌を目の当たりにすることで、驚きとともに貞観彫刻としての認識がひろまっていったというのだ。古様を示しつつも全国的にはほぼ無名に等しかった地方仏を、請うて奈良の地にもたらしした研究員の気概を感じるのは私だけではないだろう。

実は最近でも、奈良県興喜天満神社の天神坐像（平成二十四年〈二〇一二〉重要文化財指定）や滋賀県圓常寺の阿弥陀如来立像（平成三十年〈二〇一八〉重要文化財指定）など、展覧会への出陳を経て国指定文化財となった仏像がある。研究員の熱意は確実に受け継がれているのである。

展示や撮影を契機としてその価値や魅力が共有されるようになり、信仰の対象から真に文化財としての意味をも持つものとなっていく。博物館にとってこれ以上の幸福はないと思う。このことをガラス乾板は改めて教えてくれた。

※ガラス乾板のデジタル画像は当館の仏教美術資料研究センターでご覧頂けます。開館は、毎週水曜日と金曜日の午前九時半から午後四時半まで。



薬師如来坐像 岩手 黒石寺蔵

【表紙写真解説】

刺繡靈鷲山釈迦如来説法図

英国・大英博物館
縦二四一・〇cm 横一五九・〇cm
中国・唐（八世紀）

二十世紀初頭に敦煌で発見された繡仏。今日に伝わる唐代の繡仏ではもっとも大きく、保存も良好である。如来、両脇侍、二人の僧侶の五尊を表し、下方には結縁者と思われる人物たちを小さく入れている。技法は鎖繡（チェーンステッチ）で、顔や肉身は針足を細かく、それ以外はやや長めに刺繡する。頬の丸みなどもステッチの方向で表しており、繡技は巧みである。唐代にはこのような繡仏が大量に作られ、本品はその隆盛を伝える貴重な作例である。

内藤 栄（当館学芸部長）

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

7月3日(火)～

【彫刻】

【第1室】

如来立像
藏王権現立像
広目天立像
地藏菩薩立像
毘沙門天立像
南無仏太子立像

当館
当館
当館
当館
当館
当館

【第2室】

獅子
観音菩薩立像
弥勒菩薩立像
観音菩薩立像

当館
当館
文化庁
室生寺

細見美術財団

【第3室】

宝冠阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来立像
阿弥陀如来立像
阿弥陀如来立像

安楽寿院
当館
金剛寺
当館
個人
個人

【第4室】

菩薩坐像
毘沙門天立像
天部坐像
薬師如来坐像
文殊菩薩坐像

観音寺
如法寺
当館
当館
薬師寺

【第5室】

誕生釈迦仏立像

個人

【第7室】

観音菩薩立像

観心寺

誕生釈迦仏立像
誕生釈迦仏立像
如来立像
菩薩立像
菩薩半跏像

個人
当館
当館
当館
法隆寺
神野寺

観音菩薩立像
観音菩薩立像
如来坐像
二仏並坐像
菩薩立像
十一面観音菩薩立像
力士立像

個人
当館
当館
当館
個人
個人
個人

如来立像

光明寺

如来立像

当館

釈迦如来坐像

園城寺

薬師如来坐像

文化庁

誕生釈迦仏立像

薬師寺

不動明王立像

当館

勢至菩薩立像

当館

【第6室】

阿弥陀如来立像(裸形)
釈迦如来立像
如来三尊像
如来三尊像
天部立像
如来立像
釈迦如来坐像
如意輪観音菩薩坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
象

浄土寺
法明寺
当館
個人
兵庫県
当館
室生寺
当館
歓喜寺
西大寺
個人
個人

●釈迦如来坐像
如意輪観音菩薩坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
阿弥陀如来坐像
獅子
象

個人
個人
個人
個人
個人
個人
個人
個人

観音菩薩立像

当館

十一面観音菩薩立像

勝林寺

十一面観音菩薩立像

新薬師寺

十一面観音菩薩立像

当館

光背二月堂本尊所用

東大寺

十一面観音菩薩立像

薬師寺

千手観音菩薩立像

園城寺

【第8室】

狛犬(二対)
天神坐像
義淵僧正坐像
梵天立像
救脱菩薩立像
不動三尊像

手向山八幡宮
興喜天満神社
岡寺
秋篠寺
秋篠寺
新薬師寺

【第9室】

龍猛菩薩立像
地藏菩薩立像
明星菩薩立像
准胝観音菩薩立像
地藏菩薩立像
地藏菩薩立像

泰雲院
弘仁寺
文化庁
大福寺
新薬師寺

【第10室】

不動明王立像
愛染明王坐像
不動明王坐像
不動明王坐像

当館
当館
園城寺
正寿院



◎不動明王坐像 正寿院

軍荼利明王立像

園城寺

大威徳明王騎牛像

当館

【第11室】

閻魔王坐像
薬師如来坐像
地藏菩薩立像
十二神将立像(午・亥)
金剛童子立像
狛犬

大慈仙町自治会
長谷寺
金剛山寺
当館
当館
当館

男女神坐像
僧形神坐像
女神坐像
童子形坐像

興喜天満神社
当館
当館
当館
当館

破損仏像残欠コレクション

大峯山寺
当館

【第12室】

阿弥陀如来立像(善光寺式)
如来立像
毘沙門天立像
十二神将立像(辰・未神)

善光寺
個人
高尾地藏堂
室生寺

【第13室】

如来倚像(押出仏)
観音菩薩立像(押出仏二面)
如意輪観音坐像
地藏菩薩立像
僧形立像

当館
当館
当館
当館
当館

十一面観音菩薩立像

当館

十一面観音菩薩立像

当館

蔵王権現立像(五軀)

大峯山寺

※●＝国宝、◎＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

◆キャンパスメンバーズ

平成30年6月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

❖ 特別展「糸のみほとけ」公開講座❖

- 7月21日(土)
「国宝綴織當麻曼荼羅 ― その図様と意義」
大西 磨希子氏(佛教大学教授)
- 8月4日(土)
「繡仏の世界
― 刺繡釈迦如來說法図(奈良国立博物館蔵)を中心に」
内藤 栄(当館学芸部長)
- 8月11日(土・祝)
「飛鳥から奈良時代における刺繡と金糸の技法の変遷」
沢田 むつ代氏(東京国立博物館客員研究員)
- 【時 間】 各回とも13:30~15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 各194名(先着順)
- *聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)
*当日12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。
*入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。
*入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ サンデートーク❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

- 7月15日(日)「文化財を科学するV」
鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)
博物館は、文化財の収蔵・展示環境を整え、基礎調査を実施するとともに、必要に応じて修理を行っています。これら文化財を保存する取り組みについてお話しします。
- 8月19日(日)「裳懸座再考」
岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)
すわった仏像の台座には、着衣が台座をおおって垂れかかる裳懸座という形式があります。この裳懸座について、様々な作例から分析していきます。
- 9月16日(日)「古文書に見る中世後期の和国」
佐藤 稜介(当館学芸部研究員)
“守護不設置”の国として知られる中世の和国。寺社勢力の強い影響下に生きた人々は多くの古文書を遺しました。表情豊かな古文書の世界を通して、中世・和国の一端をご紹介します。
- 10月14日(日)「仏像写真考」
佐々木 香輔(当館学芸部資料室主任)
仏像写真というジャンルがあります。古くは大正期の小川晴暘、戦後の土門拳や入江泰吉が仏像を写真で表現しました。現代において仏像写真はどのような意味を持ちうるでしょう?自身の経験と具体的文献を踏まえ、皆さんと一緒に考えたいと思います。
- 11月18日(日)「中世絵巻と宮曼荼羅」
谷口 耕生(当館学芸部教育室長)
鎌倉仏教の興隆とともに盛んに制作された縁起絵巻や高僧伝絵巻。これら中世絵巻に表される神社の景観描写に宮曼荼羅の型が用いられることの意味を読み解きます。
- 12月16日(日)「平安時代の宮中の日常―政治と生活―」
斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)
物語などに描かれる、きらびやかな宮中の日常は実際どのようなものだったのか。天皇や貴族の政務や生活の様子を、日記などから読み取ります。
- 【時 間】 各回とも14:00~15:30(13:30開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 194名(先着順)
- *聴講無料(入場には入場整理券が必要です)
*当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。
*入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

❖ イベント情報❖

- 特別展「糸のみほとけ」子ども無料日!
7月28日(土)、29日(日)は子ども無料日です。中学生以下の方はどなたでも無料で特別展「糸のみほとけ」をご観覧いただけます。また同伴の方は団体料金でご観覧いただけます。
- 特別展「糸のみほとけ」開催記念特別企画 オリジナル手芸作品 展示コーナー
特別展「糸のみほとけ」の会期中、皆様から募集した手芸作品を当館地下回廊に展示いたします。皆様から送られた作品の写真を掲示し、来館者投票の結果、得票数の多かった上位30作品について実物を展示いたします。
募集期間/6月11日(月)~7月6日(金)
写真展示/7月14日(土)~8月7日(火)※投票は7月29日(日)まで
実物展示/8月8日(水)~8月26日(日)※投票は8月23日(木)まで
- 特別展「糸のみほとけ」関連イベント 綴織実演
綴織の作品がどのようにして織られたか、実演しながら分かりやすく解説いたします。
【日 時】 7月22日(日)10:00~16:00
(解説は10時、13時、15時から開始。途中休憩をはさみます。)
【解 説】 川島織物セルコン
【会 場】 特別展「糸のみほとけ」展示室
(特別展に入場していただく必要がございます。)
【備 考】 事前申込は不要です。当イベントは実演の見学のみです。体験はできません。
- 親子向けワークショップ「織ってみよう!糸のみほとけ」
キットを使って簡単な手織りを体験しながら、展示されている綴織などについて学ぶ親子向けワークショップです。出来上がった手織り作品はお持ち帰りいただけます。
【日 時】 7月29日(日)
①10:00~12:00 ②13:30~15:30
【場 所】 当館地下回廊
【講 師】 奈良教育大学 大学院生
【対 象】 小・中学生(保護者同伴)
【定 員】 各回18組
【参加費】 無料(但し保護者の方については、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等のご提示が必要です。)
※当館ホームページよりお申し込みください。
※7月2日(月)10:00より受付を開始し、先着順で定員になり次第、受付終了とさせていただきます。

◆奈良国立博物館賛助会

平成30年6月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)16団体、一般会員(個人)58名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(株)グラスパウハーンジャパン、(有)志津香

〔個人会員(新規)〕 吉村 升平様 平成30年4月 ご入会
浅沼 正 様 平成30年6月 ご入会

展示品の みどころ



ししゅう あ み だ みょうごう 刺繍阿弥陀名号

重要文化財
縦61.2cm 横18.2cm
鎌倉～南北朝時代(13～14世紀)
福島・阿弥陀寺

阿弥陀如来の名号を髪の毛を用いて刺繍している。この名号が蓮華座にのり、上に天蓋がかかっているのは、名号を仏として表しているからである。つまり、この作

品において髪の毛の持ち主は阿弥陀如来と一体とされている。記録によれば、鎌倉時代においてしばしば故人の髪で阿弥陀如来の繡仏を作っている。この作品もそのような品であろう。

刺繍技法は刺し繡を主として用いる。この技法は長短の針足を重なるように繡い進めるもので、複数の色糸を用いることで色の暈かしを表すことができる。蓮華座の蓮弁や表装部分の蓮華などで、暈かしの効果が巧みに表現されている。

この繡仏の一番の特徴は、後世の修理の手がほとんど入っていないことである。鎌倉時代以降、表装の部分まで刺繍で表した繡仏がしばしば作られたが、多くは後世の修理で新たな表具が加えられた。この作品は刺繍で表された当初の表装のまま今日に伝わる希有な例である。掛幅のすべてを刺繍で表現したところに、繡匠の矜持が感じられる。

内藤 栄(当館学芸部長)

◆7月14日(土)～8月26日(日)
修理完成記念特別展「糸のみほとけ-国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏」にて展示

によらい ざ ぞう 如来坐像

銅造鍍金
総高8.8cm
中国・五胡十六国時代
(4～5世紀)
当館(川上宗雪氏寄贈)



新たに収蔵された本像は、当館所蔵の金銅仏の中では最も古いものとなる。大きな肉髻に比較的大ぶりの目鼻立ちが特徴で、袈裟を通肩にまとい、禪定印のような印相をとる坐像である。台座には一對の獅子が表される。こうした形状は、現在のパキスタンにあたるガンダーラ地方の仏像に由来すると考えられる。しかし、左右対称に規則正しく刻まれる衣文の構成や、両手を組んで、拱手(中国で敬礼するときの手の形)するかのような印相など、どこか銅鏡の裏面などに表される神仙のような雰囲気漂わせている。神仙像を彫っていた漢民族の工人が、原型を造ったのではないかと思わせる。

本像が制作された中国の五胡十六国時代(304～439)は中国北部で遊牧民族の国々が興亡を繰り返した動乱の時代である。インドから伝わった仏教は、この時代に中国社会に広く浸透していった。本像もそんな時代背景のもとで造られた金銅仏の一つなのだろう。中国初期の仏像として貴重であり、これまで北魏以前の金銅仏がなかった当館の名品展をより充実させてくれる仏像となるだろう。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(7月～9月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・ただし特別展「糸のみほとけ」会期中は午後6時まで。
・名品展は、金・土曜日は午後8時まで、
8月5日(日)、7日(火)～9日(木)、12日(日)～15日(火)は午後7時まで、
8月10日(金)、11日(土)は午後9時まで。
・特別展「糸のみほとけ」は、金・土曜日は
8月5日(日)、7日(火)～15日(火)は午後7時まで。
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 特別展「糸のみほとけ」

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個 人	1,500円	1,000円	500円
団 体	1,300円	800円	300円

※団体は20名以上です。※前売券の販売は7月13日(金)までです。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券を400円でお求めいただけます。
※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。

■休館日／毎週月曜日、
ただし、7月16日、8月13日は開館。
★子ども無料日(特別展)／7月28日(土)、29日(日)
★無料観覧日／9月17日(月・祝)

■観覧料金 名品展

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無 料
団 体	410円	210円	無 料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引)。
※夏休み(7・8月)中、会館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は、団体料金を適用します(ライト割引)。



●バス停
[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。